

城陽市障がい者自立支援協議会

第6回 療育部会報告書

報告者 部会長 障害児(者)地域療育支援センターういる 籠谷 光彦

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 25 年 3 月 7 日 13:00-14:00
場 所	地域福祉支援センター城陽 会議室
出席者	城陽市福祉課 相談支援事業所 (ういる、はーもにい) 障害福祉サービス提供事業所 (あっぷ、城陽市社会福祉協議会、 ふたば園、ものづくりスペースみんななかま)
検討課題	<input type="radio"/> ふたば園見学後の意見交流 <input type="radio"/> その他 意見交換

【議事録】

1. 自己紹介
2. * 2月13日、15日の2日間にわたり、ふたば園【個別療育、集団療育】見学実施
これを受けての感想等の意見交流
⇒各事業所から意見として
 - ・見学時は先生3名子供3名と非常に手厚い環境だと感じた。親子で取り組む環境が学齢期以降では少ないので貴重な体験。また保護者の方と先生で毎回どのような話をされているのか気になった。
 - ・写真の使い方の工夫が参考になった。通っておられる方の障がいの有無の見分けがつかなかった。
 - ・児童発達支援事業を利用された方は、卒業後も福祉サービスを利用されるのか？
 - ・職員が無駄な声掛けを不必要な声掛けをされていなかった事が大事と感じた。
 - ・通園されている保護者の中には障がい認知のない方も来られていた事が意外だった。
 - ・社会につながるスキルの習得の場として、土台を作ることに活かされていると感じた。⇒ふたば園より
 - ・保護者の方のふたば園利用の感覚としては必ずしも障がい認知をされているわけではない。習い事感覚で来られる方もいる。利用の敷居が低くなることで、結果として将来的な予防につながっている。保護者の方への説明としては本人に対する声掛けの仕方等を療育終了後に説明したり、学習会を開催したりしている。*また、次の学齢期以降への意見も、
⇒各事業所より
 - ・精神疾患の利用者で元をたどっていくと発達障がいをもっていると言う方が多いので具体的に

議論して形にできたらいい。

- ・園での指導計画書を次の学齢期以降で活かされないのがもったいない。支援ファイルと合わせての活用もできる。
- ・サービス依存傾向の保護者と使わなくてもうまくいっている保護者の岐路は、どこなのか対比で追跡してみるのもいいのでは？

⇒ふたば園より

- ・移行支援については今後部会で縦の連携のモデルケースで共有してみたい。

来年度の部会の動きとして

- ・学齢期の児童が利用できる地域の事業所の見学
- ・縦の連携に関するモデルケースを通じたケース事例検討の実施